

ネイブリッジは根拠ある意思決定を実現します

1. 主体性と存在有無の違い

- 多くの管理会社は **住民にポータルを持たせていない** ケースが多々ある
 - 👉 情報は紙の回覧・メール・管理会社に問い合わせないと得られない
- ポータルを持っていても、基本的には **管理会社主体で設計・運用** されている
- ネイブリッジは
 - 👉 **現役の理事長が住民目線で設計**
 - 👉 管理会社に依存せず、住民自身が情報を直接整理・確認できる

2. 理解と学びにつながる

管理会社の仕組み：

👉 提示される情報が限定的で、住民は必要な資料に触れにくい

ネイブリッジ：

👉 ポータルを使うことで **建物管理に必要な事項を自然に学べる**

👉 設備や工事に詳しくない理事でも、難なく理解できる

3. 修理・整備時の透明性

•従来：

👉 過去の修理資料や見積書が整理されておらず、根拠がないまま承認せざるを得ない

•ネイブリッジ：

👉 **カテゴリ別・時系列で資料を蓄積**

👉 修理の妥当性や金額の適正を検討できる

👉 相見積もりを取るとき、検索やAIを使って過去資料を活用可能

4. 導入の意義

ネイブリッジは、管理会社が与えない場合も多い「住民のためのポータル」を提供
住民主体で情報を保管・共有し、

👉 **透明性**（誰でも確認できる）

👉 **根拠ある意思決定**（材料をもとに承認できる）

を実現する仕組み。

まとめ（管理会社ポータルとの違い）

- 多くの管理会社は**住民にポータルを持たせていない**、またはあっても**管理会社主体で情報が制御**されている
- ネイブリッジは**現役理事長が住民目線で設計**し、
 - 👉 難しい知識がなくても書類を整理・管理できる
 - 👉 利用することで自然に建物管理の理解が深まる
- 修理や整備の時も、**カテゴリ別・時系列で資料が揃っている**ため、妥当性や金額の適正を住民自身が確認可能
- 「材料がないまま承認してしまう」これまでの状況を変え、
 - 👉 透明性と根拠ある意思決定を可能にする